

野田九条通信

2015年1月 109号

「野田・九条の会」事務局

Tel 7122-0502

野田・九条の会ホームページ

www43.tok2.com/home/article9nodan

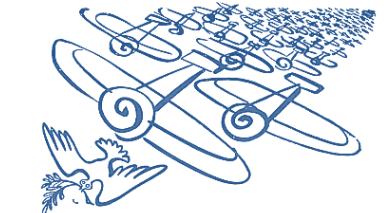


成人おめでとうございます

今年「野田・九条の会」が発足してから十年になります。また敗戦後七十年の節目の年でもあります。

発足、緊急アピールを発表し改憲阻止を訴えられました。そして翌年「野田・九条の会」発足

憲態勢にあります。しかし、我々はどうなる状況にあらうともあき



この地球から戦争をなくすこと、そんなこと理想さ、と切り捨てないでください。九条の会賛

野田・九条の会 日佐戸輝
呼びかけ人
「頼んだ！」
戦争する国を
この子に残せと

第二次大戦では五千万を超える人命が奪われたといわれています。これらの尊い犠牲者の怨念が、そして祈りが日本では平和憲法となりました。それは戦後六十年を武力によつては誰一人殺すこともなく、殺されることもない平和を守つてきました。このことは世界の先進国では稀有のことといわれました。

以来十年間「九条の会」は全国七千の団体と共に目覚ましい活動を続けてきましたが、残念ながら改憲勢力を止めることは出来ない状況にあります。さらに師走総選挙に於いて与党は三分の二議席を確保、改

来ません。戦後を生きた我々のはあの五千万ともいわれる戦争犠牲者の号泣といった今際の叫びを想い、同志の勢力を結集し、知恵を絞り対応しなければなりません。対応の中で難しいもの

せんそうはすべての「愛」をこわす。

今、声をあげよう。日本国憲法の「愛」を失う前に。

◆九条の会・石川ネット ◆石川県憲法を守る会 ◆石川県憲法会

「9条の会・石川ネット」作製リーフレット

今月の予定

1月10日(土) 14:00~16:00
野田・九条の会定例会
現憲法と自民党改憲案を比較学習 第1回「前文と第1章・天皇」
中央公民館講座室

1月12日(月・祝)
9:30~ 13:15~16:30
成人式前 DVD上映会 & 意見交換
チラシ配布 TBS報道特集『集団的自衛権の行方』
クローズ『イラク派遣10年の真実』
アップ 現代『集団的自衛権 菅官房長官に聞く』
中央公民館前集合 南部梅郷公民館 南地域九条の会

1月23日(金) 13:00~16:00
DVD上映会 & 意見交換
『三池を抱きしめる女たち~戦後最大の炭鉱事故から50年~』
樺のホール研修室 けやき9条の会



九条の眼 戦後最低投票率 どうした有権者!!

踏み止まったか、「唐突選挙」結果

事前調査報道で自民党が 300 議席を超え改憲発議に必要な三分の二を獲得するのではないかとされていたが 291 議席に微減、なんとか改憲の大波を食い止めた。しかし投票率は目を覆わんばかりの戦後最低の 52.66% で有権者の半数は権利を行使していません。「争点がよくわからない」とか「世の中変わらないよ」などと自分の意思をハッキリさせられず棄権してしまったようです。こうして追認された自民一強体制はこの先何をもたらすのでしょうか。

安倍政権は何をしようとしているか明らか

安倍首相は戦勝会見で「経済政策を最優先する」と言いましたが獲得議席は以前の圧倒的多数と変わらず解散する必要はありませんでした。なゼリセットし四年の任期を確保しようとしたかですが、その狙いは憲法改正の日程を確実な軌道に乗せようとする事です。10%増税の先送りで時間を稼ぎ、2016年の7月任期満了の参議院選挙と抱合わせ、衆参同日選挙を仕掛けることにより一気に改憲議席三分の二を獲得しようとしているのは明らかです。



いつかきた「この道しかない」道は辿れない

先の戦争は中国、アジア諸国への侵略戦争でした。敗戦後歴代内閣はこれらの国と友好関係を築き平和外交を進めてきましたが現在の安倍政権はどうでしょう。韓国、中国としっかりできていないのは歴史

延命安倍内閣の改憲狙いを挫こう



認識の違いにあります。加害側が敗戦の不名誉を拭おうと民族主義に傾倒し、ヘイトスピーチや嫌韓、嫌中の動きを利用しているかのように見えます。複数の閣僚はこれらの団体の人々と共に、一緒に写真に納まっています。

関係諸国との外交は敗戦で受容れた「ポツダム宣言」を基本としなければなりません。「戦後レジームからの脱却」、歴史を修正し靖国神社参拝を強行しようとする安倍首相の「この道しかない」は海外派兵、国内テロを招く道であって決して辿ってはなりません。改憲に向けたルールは敷かれつつあり、新聞二紙は政権の広報紙化しており、また在京テレビキー局各社は編集権介入を拒否できないところまで来ているようです。



護憲で何を指すか



九条を活かし戦後 68 年国際社会でも認められ今日に至っていますが、ずっと抱えこんでいるのが「歴史問題の克服」です。日米安保条約、地位協定、靖国問題ほか全ては敗戦と共に国民の総意をもって対処していなければならなかったことです。今選挙では半数が棄権し安倍政権を放任してしまいましたが、沖縄県民は全四区を自民敗退としました。この違いは同じ憲法下、一人ひとりが現状と歴史をしっかりと我が身におき、国の有り様を考え投票に臨んだことにあったと思います。苦しくとも自由と平和を求め差別のない社会を実現する、これが護憲の理念でしょう。

片桐直勝

安倍総理は昨年、集団的自衛権行使容認」を閣議決定し、「特別秘密保護法」を施行するなど民主主義国家の基本を壊し、更に政権延命を謀る解散総選挙を行いました。

今回は大切な選挙だから、若い人たちにも棄権することなく投票をと...祈る想いでしたが、52%台と戦後最低の投票率となり、憲法による民主主義の権利を自ら放棄してしまいとても悔しくて虚しい！こんなことでいいのでしょうか。

今後国民に支持されたと勘違いをした政権が、国民に配慮のない政策を次々と推し進めていく怖さを

声を出して語り合いませんか



宇野和江

感じます。「憲法九条」を大切にしてきたからこそ、70年もの年月を平和に暮らして来たのに「積極的平和主義」などと言葉を変え、立憲主義を無視して勝手に解釈改憲をする安倍総理は人としての知性、感性



Erträgt nun dies Unglück mit Fassung!

を失っているとしか思えません。

福島第1原発の核の処理も未解決のまま、川内原発を稼働しようとする動きや、沖縄県の基地問題等を考えても不安なことばかりです。誰もが格差のない平等で平和な社会を求めており、誰も武力を持ち戦争する国なんて望んではいません。

私達には、可愛い子や孫、次の世代にこの平和な社会を守り受け継いでいく役割があるのではないのでしょうか？ テレビ報道や新聞等に騙されることなく、ひとりひとりがしっかりと安倍政権を監視して声を出し語り合いませんか。